

古武士の遺言

伊佐 二久 (55期)
予科32中隊
5, 6区隊長
(熊本市)



はじめに：

このたび、秩父編集委員長の川島順氏から、秩父もそろそろ終わりにしたいので、それに相応しい「古武士の遺言」と題して原稿を書くよう依頼された。タイトルが立派過ぎてためらったが、私も98歳と高齢で、戦時中陸軍将校(大尉、自衛隊の一尉)だったので古武士であり、余命も僅かなので遺言のつもりで、終戦当時の思い出と日本人の優秀性、さらに若い方に対する私見を述べさせていただくことにした。

1. 終戦当時の思い出

偕行令和元年8月号で61期生後藤卓三氏の「あの日八月十五日」を拝読、当時は私も陸軍予科士官学校の区隊長(32中隊)を勤めていたので、あの日の感動は今でも身に迫るものがある。

生徒たちと、「短慮を起こすことなく、日本の復興に寄与すること」を誓い、涙を呑んで別れたが、皆さん全国から選ばれた秀才ばかりで、それぞれ各方面において活躍し日本の復興に貢献されたことを誇りに思っている。

私は大東亜戦争中、北海道旭川の第7師団、歩兵第26連隊の機関銃中隊長として勤めていた。アリューシャン列島のアツツ島は26連隊の穂積部隊が占領し、後でキスカ島に移転、山崎部隊と交代した。米

軍がアツツ島を攻撃し山崎部隊が玉砕したが、救援のため私の属する第26連隊に動員がかかり、明日小樽港から出発と言う時、中止となった。その時は残念だったが、行っていれば米潜水艦の魚雷攻撃で海の藻屑となっていたであろう。その後、北千島の守備にあたったが、終戦後ソビエト軍が北千島に侵攻した時は私は東京にいたため命拾いした。北千島にいたら戦死かシベリア抑留で凍死か餓死していたであろう。

キスカ島の穂積部隊も海軍の協力で、濃霧を利用したため、米軍に発見されず無事北海道に帰国することが出来た。

終戦後にかかわらず、ソ連軍は日ソ中立条約を破って北千島に侵攻し日本軍と激戦した。もしも日本軍が戦わなかったら、やすやすと北海道は占領され、今の北朝鮮のようになっていたであろう。

北千島の占守島に上陸したソ連軍に対して日本軍が反撃している最中、同期生の故長島厚君(予科士官学校で同室の寝台戦友)が師団司令部付だったため、平和交渉を命じられた。彼は死を覚悟して一人で行こうとしたが、部下が是非お供したいとの事で2名を選び3人でソビエト軍の前線基地を訪れた。白旗を掲げていったにも拘わらず、ソ連軍から射撃されたが、幸い無事であった。

ソビエト軍司令部では嚴重に身体検査され軍刀も没収された。停戦の書類を提出したが「印鑑はあるがサインがない」と言って受取りを拒否された。長島は怒って「受け取らないならここでハラキリする」と怒鳴った。これが功を奏して書類を受け取ってくれた。その後、日ソ両軍の司令官による停戦交渉が行われ長島君も同席していたが、その時ソビエトの司令官が「ハラキリ君のおかげで停戦できた」と褒めてくれたと述懐している。

2. 日本民族の優秀性

日本人の優秀性に関しては数千年の歴史があり、当然遺伝的、伝統的な因子もあると思うが、それ以外の問題について検討してみた。

(1) 春夏秋冬の季節変動があること：

世界には常夏の国がいくつかあるが、いずれも発展途上国で、人が働かなくても果物は豊富だし、野生の食料も豊富である。この点日本は春夏秋冬と絶えず気温や天候が変化し、子供の時からこのような変化に順応しており、それだけに環境の変化に巧みに順応する能力が養成されてきた。

(2) 日本語の文字には漢字、平仮名、片仮名の三つあること：

これも日本人の優秀性を形成した一因である。戦後まもなく、ある大学の教授は「日本語は漢字、平仮名、片仮名の三つあるのが欠点」と言って黒板にローマ字で講義する人がいたが、これは当時の電算機が漢字を読めなかったからで、日本語の長所を自ら放棄するもので、極めて了見の狭い考え方である。

日本人は子供の時から複雑な言葉に慣れているので、考え方が柔軟となり、どのような状況にも適応できる能力がつくものと思われる。

漢字は中国から伝わったが本来は表意文字である。漢字が刻まれた中国の貨幣が日本に渡来したのは1世紀頃と考えられている。6世紀の奈良時代に日本では漢字を意味でなく音で使った万葉仮名が確立された。古事記も万葉仮名で記載されている。太安万侶は古事記の序文に「苦心して漢字と万葉仮名の混合で書き上げた」と言っている。

昔は小学校から「あいうえお」ではなく「いろは」で教えられたが、今の教科書では「いろは歌」は削除されている。

48文字を1回しか使わないで和歌を作る（これを仮名を重複させずに作られた韻文という）発想は素晴らしものと思っている。「いろは歌」以外にも同様の韻文の歌を作った人はおられるが、その中でも、中村菜花群氏は「新いろは歌一人百首」、「新いろは歌舌鼓撰集」など多数出版され、その数は三千首以上に及んでいると伺い敬服している。

この様に優れた「いろは歌」を教科書に復活してほしいと思うのは私ばかりではないと思う。文部省の皆さんに検討していただきたいと思っている。

(3) 日本人の寛容性、特に宗教：

日本人は何でも取り入れる寛容性を持っている。特に宗教面では自由で、キリスト教会で結婚式を挙げ、クリスマスプレゼントをあげたり、正月や七五三では神社にお参りし、葬式はお寺でするなど無宗教に近い日常である。

私は国際協力事業団（JICA）の専門家としてエジプトカイロ大学小児病院プロジェクトリーダーを3年間勤めたが、あるエジプト人の若い医師が日本に留学した時仕事の都合で3日間断食できないことがあった。そこで彼は帰国してから3日間余計に断食すると聞いてその真面目さに驚いたものである。もっとも日常の勤務はその反対にルーズであるが。

最近イスラム教の宗派が違うだけでモスクを襲撃し数百人が死亡するという事件があり、アラーの神はどう思っているのか考える人はいないのかと思ったこともあった。

(4) 貧富の差があまりない：

私か小学生の頃同級生で納豆などを売り歩いている子どもがいた。級長をしていた優秀な子どもでさえ中学に行けない子供がいた。当時は小学校だけが義務教育だった時代である。その頃は貧富の差

が大きく、街角には乞食がすわって御金をせびっていた。貧しい家の子ども達は道で靴磨きをしたり、新聞配達や豆腐売りをして稼いでいた。田舎の小作農は飢饉で小作料か払えず、娘を女衞（ぜげん、女を売り買いする商人）に売る家庭も多かった。最近韓国で慰安婦が問題になっているが日本人でも小作農家は娘を慰安婦に売る人も少なくなかったのである。

昔の軍人は優遇されてはいたが安月給で「貧乏少尉、やりくり中尉、やっとこ大尉」などのザレ歌が流行っていた。

今は自家用車を持たない家はほとんどないようで、中には子供の数と同じ2~4台置いてある家もある。

(5) 教育の普及：

私が子供の頃は小学校だけが義務教育で、小学3年から男女別クラスだった。

昔は「教育勅語」と云うものがあって、君に忠義を父母に孝行を尽し、兄弟姉妹仲良くし、夫婦睦み合い、朋友相信じ、学問を修めて世の中のためになる人となれ、一旦緩急あれば国のために一身を捧げよと教えられた。また親からは、嘘をついてはいけない、弱い者いじめしてはいけないと言われてきた。

今は中学まで義務教育で、高校、大学に進む人も少なくない。日本人の教育レベル、人間性、判断力がそれだけ高くなっていると思っている。

発展途上国では今でも文字が書けない子供たちが少なくないことを思うと日本は恵まれているという思いである。

(6) 日本人の健康：

WHO（世界保健機構）が2018年発表した世界183ヶ国の男女合同平均寿命は日本が一位で84.2歳、二位スイス83.1歳、三位スペイン83.1歳、4位オーストラリア、フランス、シンガポール82.9歳、7位カナダ、イタリア82.8歳である。

健康寿命（自立生活可能な年齢）は男女併せて日本が一位74.9歳、二位シンガポール73.9歳、三位韓国73.2歳。このように健康寿命は優れているが、その原因として健康保険の普及もその一因と思われる。日本は国民皆保険であり、保険証一枚で貧富の差別なく最高の医療が受けられるのは素晴らしいことで文明国家の象徴でもある。

(7) 国が狭く島国であること：

島国で海に囲まれているため外国からの侵入もなく、平和か保たれ独自の文化が発展したと思われる。一時元寇の来襲はあったが嵐のため元寇船は沈没した。

国が狭いことが日本人の優秀性につながるという、反対する人が多いと思う。私たちが若い頃は日本は人口が増えるが国土が狭いから植民地を作る必要があると教えられ、それを信じていた。

満州国は「五族協和」という理想で建設されたが、実情は関東軍や日本人官僚の支配下にあり、皇帝溥儀もほとんど無力だったようで、現実とは理想とは程遠いものであった。

大東亜戦争後日本は朝鮮、台湾、樺太などを失い狭い国になったが、かえって経済的に発展し経済大国になっている。

国土が狭いことは国民が相互に近接し常時交友を深めていることが、日本人の優秀性につながったと思っている。

(8) 日本人の真面目さ：

日本では国中どこでも安全で危険なところはないし、買い物をしてもどの店でもきちんと清算してくれる。この点発展途上国ではお釣りをくれなかったり、商品で代用するところもある。

昭和40年代だったと思うが米国に行った時、車が止まると黒人の子どもたちが窓を拭いてお金をせびったり、黒人男性が自動販売機の釣銭をさぐって取り忘れ

を探したりしていた。

フランスでもパリの美術館を出てきたらヒッピーの娘たちがよってきて財布を狙ったり、ある国では「写真を撮ってあげる」と言ってカメラを受取り、そのまま逃げてしまうなど、日本ではそんなことはあり得ないし、交差点の赤信号でも外国では車がいなければさっさと渡っているか、日本人は真面目に待っている。

3. 若い方への提言

終戦当時東京、大阪、神戸、広島など大都市は米軍の空襲や原子爆弾で廃墟と化し、この復興には百年を要すると思っていた。しかし戦後僅かで日本は経済大国に成長したのを見て「日本人は優秀」という思いが強くなってきた。この日本人の優秀性を維持し、ますます伸すために必要な要件を次に挙げたい。

(1) 自己を鍛えよ(克己心):

今の若い方々は皆自家用車を持ち遠距離を歩くことはない。またスマホなどの普及で体力の低下や、事故や近眼も増えているようである。

ここで私の経験を紹介し参考になれば幸いである。今は死語になったが「艱難汝を球にす(苦難、困難か人を成長させる)」という言葉があり、昔の若い人は安楽よりも難関を選んで自分を鍛えていた。以下に私の経験をご紹介します。

☆2日で180キロを行軍：昭和17年頃私は下士官候補生の教育を担当していた。そこで旭川から大雪山まで往復行軍を計画、服装も軍服で小銃を持ち、背囊をかつぎ水筒や食事などを携行した完全武装で、1時間4キロで行軍し、大雪山で小休止したが徹夜で行軍し、全員無事故で旭川に帰還することができた。

☆真冬に氷の池で泳ぐ：昭和19年陸軍予科士官学校の区隊長を命じられ、60期生(32中隊6区隊)を担当した。当時真冬

で校庭の池(琵琶湖と称した)には氷が張っていた。野外で剣道の練習後、汗をかいた頃全員裸になり、私か先頭で氷を破りつつ対岸まで泳いだ。氷が皮膚に痛いほど感じたのを記憶している。

☆10メートルの断崖から飛び下りる：ある演習地で高い断崖を見つけてつぶさに観察したが、断崖は下部が寛恕な傾斜で、飛び下りても安全と判断、まず私か真っ先に飛び下りて見せて、生徒達に飛び下りさせたが全員無事であった。

このように昔は艱難に向かってチャレンジし、自己を鍛えることを誇りとしていたものである。今の若い方々も安楽を望まず、艱難に向かって挑戦して戴きたい。

(2) 団体生活を体験せよ：

昔の私たちは国のため命を捧げることは当然とっていた。国を守ることは当然愛する家族を守ることであり、このことは現代でも通用すると信じている。

徴兵の義務：男子は適齢になると徴兵検査があり合格すれば兵役義務があり軍隊で鍛えられたものである。今は希望者のみが自衛隊に応募しているが、反面一般人は軍人精神を持たず勤務もルーズな人が多い。厳しくはあるが昔のような真摯な精神を持ってもらいたい。

団体生活の経験が少なく、親に甘やかされて育った人が引きこもりになりやすいと思われる。

昔の青年で健康な人はすべて軍隊生活の経験があり、そこでは国のため命をかけて守るという責任観念を養成された。これが終戦後も日本の復興につながったと信じている。今の若い人にもこの責任観念を引き継いで頂きたいものである。

しかし、徴兵制度の復活と云っても、戦争を放棄した今の日本では不可能である。そこで、最近頻発している地震や台風などの災害の復興のためのボランティア

アを制度化して、なるべく多くの若者が参加できる方法を思案してはいかが。例えば、昔の献血と同じようにボランティア手帳を作り、その実績に応じて国が何らかの恩恵を与える、例えば、年金の支給率を増す等の方法が考えられないか。

(3) 言論の自由について:

昨年 10 月天皇即位記念日に天皇制反対デモが行われた。職務執行妨害で 3 人の逮捕者が出たものの、一人の負傷者を出すことなく平穏に終わったのも、言論の自由が保障されている戦後の日本だからこそである。

昔は皇紀が用いられていたが、私が若い頃「皇紀 2600 年」という歌があったのを思い出す。今次大戦の終戦時、私は万一天皇制が廃止されたら自決する覚悟でいたことを記憶している。

終戦後昭和天皇がマッカーサー司令官を訪問されたことがあった。マッカーサーは最初は命乞いに来られたと思ったら、陛下の「自分はどうなってもいいから国民を助けてほしい」というお言葉に感激して、一生陛下の写真をそばに置いていたと云われている。

昭和 16 年の大東亜戦争開戦時、昭和天皇は開戦に反対であられたが、開戦派多数で開戦になったと聞いている。

しかし、終戦の時はボッタム宣言の厳しさに御前会議では戦争継続を唱える人が多かったが、天皇陛下は断固として終戦を決断された。これまで衆議に従ってこられた天皇が断固として決断されたのはこれが唯一である。

もしも、戦争を継続していたら、日本全国が焦土と成り、ソ連は得たりと北海道、東北を占領し、日本は今の北朝鮮のような惨めな国になっていたであろう。

日本がかくも長い間天皇制を維持できたのは、天皇が国民の幸せを第一に考え

られていたためである。例えば、仁徳天皇(第 16 代)は皇室よりも国民、特に農政に重点を置かれ、堤や池を作って農業を振興させている。ある時、農家から煙が余り上がらない事に気づかれ、その年の年貢を免除して人民を救い御自らは儉約と耐乏に堪えられたと云われている。

天皇は外国との交流にも力を尽くされ優れた政治家であられたと敬服している。

このように日本の天皇制は外国と異なり、真に国民のことを優先させた政策を行ってきたので永年続いたもので、それを日本人として誇りに思い、これからも御皇室の弥栄をお祈りするものである。

それに引き換え、外国では反政府デモを行うと武力鎮圧され多数の犠牲者を出している例が多い。

1989 年 6 月に発生した中国の天安門事件は余りにも有名である。共産党発表では死者 319 人になっているが実際には 1 万人を越えていると云われている。

外国の反政府デモで死者の出た事件をあげてみると、2018 年 11 月フランス：これは黄色いベスト運動と呼ばれ、死者 10 名、負傷者 1800 名以上。同年 12 月スーダン：死者 24 人、負傷者 100 人以上。2019 年 9 月インドネシア：死者 26 人、負傷者 60 人以上。同年 10 月チリ：死者 100 人以上。同年 10 月イラク：死者 250 人、負傷者 5500 人。同年 10 月エチオピア：ノーベル平和賞受賞のアビー首相反対デモで、死者 67 人と枚挙にいとまが無い。

その点日本では天皇制反対デモに出ても絶対殺されないとの安心感から、思慮分別のない若者が面白半分にデモに参加していることが多い。

これ程言論の自由が保証されている国は世界中何処にもないであろう。

このように言論の自由が認められてい

ることは喜ばしい限りであるが、反面行き過ぎもあり、他人の中傷、批判が公然と行われ、中には名誉毀損で訴えられた事例もある。この点は十分自戒すべきである。

(4) いじめについて:

最近では友人や他人、中には家族からいじめられて自殺する子供が増えている。昔もいじめはあったか自殺するような子供はいなかったし、いじめられても立ち向かう子供が多かった。私も子供のときいじめられたことはあったが、笑って過ごしたり、相手ととけんかして収まった思い出がある。

今の子供は一人っ子が多く、甘えん坊でストレスに弱いのではないか。中国でも一人っ子政策で失敗しているが、兄弟姉妹は多い方が子供時代から社会的付き合いに順応しいろんな刺激、いじめにも対応できるのではないかと考えている。

気の弱い子供と馬鹿にしないで、子供の身になって優しく聞いてあげることが大切である。大事な子供の運命が関わっていると真剣に対処して頂きたい。

一方、加害者については、有力者を中心にしたグループによって弱い者一人をいじめめるケースが多い。このように多数の力を頼んで弱い者いじめをするのは、昔は卑怯者、正義心に欠けるとして、厳に慎むよう教育され、子供心にも皆そのように思っていた。又、そのような事例が発生すると、正義の味方として弱い者を助ける子供が出てきて、子供同士でいじめを防いだものである。最近では、このような風習が失われ、報道関係もいじめ側を記事にしない傾向がある。

悪質の場合はどんどん記事にして、加害者に警告を発してもらいたい。

また、子供自身にも、弱い者いじめすることは卑怯で有り正義心に欠けることを自

覚するように教育してもらいたい。

(5) 家族内暴力について:

昔は「親は自分を犠牲にしても愛する子供を助ける」と信じられていた。しかしこの頃の親を見ると自己中心で愛児への愛情はないのかと思われる事件が頻発している。

最近、引きこもりがちの子供が親に反抗し暴力を振るい、極端な場合は親を殺す事件が多数発生している。この原因の大半は親の甘やかしと子供の自覚のなさからきている。

これを解決するには(2)で述べた団体生活を通じて親に頼らないで自立させ、又その団体生活を通じて(1)の克己心を涵養することが最善である。そのような環境造りは、学校、職場、地域活動等において工夫し実現させる知恵を働かせてもらいたい。

(6) 麻薬中毒について:

私か大学病院にいた頃終戦で戦地から帰国した軍医で麻薬中毒の人がおり問題を起こしていたのを思い出す。麻薬特にモルヒネは性行為に効果があるらしく、厳しい規制に拘わらず暴力団等で取引されたり、海外からも密輸されている。

私も実験したことがあるが、モルヒネは心抑制がほとんどない。ただし、呼吸抑制があり、モルヒネ麻酔の患者で手術後も呼吸が1分4回しかせず、人工呼吸が必要な人がいた。麻薬は常習者になると、なかなか止められないので家族や身近の人が気をつけて、その疑いがあれば専門家に相談されるようお勧めする。

麻薬に溺れるのは自分の心の弱さに起因する。これを克服するには(1)で述べた克己心の涵養が一番大切である。

(7) オレオレ詐欺について:

これは老人で孫や曾孫が遠方にいる人がかかりやすい。私も義姉の家に行った

時、東京にいる孫から、交通事故を起こしたので金を送ってほしいと電話がかかり、信用した義姉が送金しようとしたが、私か代わって電話に出ると声がなんとなく変なので一旦切ってその孫に電話したら、やはりオレ詐欺と判明した。最近老人の一人暮らしが多いので、そのような電話があった時は、信用できる人に相談されるようお勧めする。

詐欺する側の人間は、正義心に欠けている人が多い。若い人がお金に吊られて詐欺師の手伝いをするのも、幼少時の教育、嘘をついてはいけない、悪いことをしてはいけないという学校教育や親の躾が行き届かなかったためと思われる。

おわりに：

世界は今も宗教問題、人種問題、国境問題など多くの問題をかかえて軋轢が絶えないが、日本は世界に類を見ない平和国家であり、また、日本の危機を度々切り抜けるために機能した世界に誇るべき天皇制を維持している。

ここで、若い方々にお願いしたい。古武士の言葉に少しでも耳を傾け、日本人の優秀性を失うことなく、世界平和のため、また、日本のために英知を傾け、力を発揮して頂ければ、我々は安心してあの世に行くことができます。